Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	近代教育 (学) と近代仏教2
Sub Title	Modern education and modern Buddhism
Author	真壁, 宏幹(Makabe, Hiromoto)
Publisher	慶應義塾大学
Publication year	2021
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2020.)
JaLC DOI	
	明治から昭和戦前期の教育と教育学における近代仏教の影響の大きさは知られてはいたものの、問題の複雑さもあって研究は進んでいなかった。本研究プロジェクトでは、ペスタロッチ研究者である福島政雄の教育学に対する浄土真宗の改革運動である浩々洞一派の影響を探ること、そして福島がその延長線上で国体論に吸収されていったその理由を探ることを目的とした。その結果、特に後者に関してはその鍵となる出来事が満洲建国大学教授への着任が重要な意味を持っていることを突き止めた。王道に基づく道義国家建設というイデオロギーに福島の真宗信仰と聖徳太子信仰が結びついたのである。コロナのため思うように研究会や資料調査を実施できなかったが、何回か研究会をオンラインで行い、専門家から貴重な話を伺うことができた。成果としては、2020年9月にオンライン開催された教育思想史学会でコロキウムを眞壁と山本が中心となって企画し研究成果の一部を発表した。また、眞壁はドイツの代表的教育学雑誌であるParagranaに眞壁が福島の教育学に関する論考を寄稿した。 Our research question is: what was the influences of the modern Buddhism upon the Pedagogy and educational practices before the WWII. Makabe investigated the materials of Masao Fukushima in his educational activities at the university of Kenkoku, which was founded in the puppet state Manchuria by imperial state Japan. We could reveal the reason why the peaceful educational Idea of Fukushima turned to colonialism as a result.
Notes	
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2020000009-20200004

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# 2020 年度 学事振興資金(共同研究)研究成果実績報告書

研究代表者	所属	文学部	職名	教授	補助額	412	千円
	氏名	真壁 宏幹	氏名 (英語)	Hiromoto Makabe	<b>無助領</b>	412	113

#### 研究課題(日本語)

近代教育(学)と近代仏教2

### 研究課題(英訳)

Modern Education and Modern Buddhism

研究組織								
氏 名 Name	所属・学科・職名 Affiliation, department, and position							
眞壁宏幹 (Hiromoto Makabe)	文学部教育学専攻							
山本正身(Masami Yamamoto)	文学部教育学専攻							

#### 1. 研究成果実績の概要

明治から昭和戦前期の教育と教育学における近代仏教の影響の大きさは知られてはいたものの、問題の複雑さもあって研究は進んでいなかった。本研究プロジェクトでは、ペスタロッチ研究者である福島政雄の教育学に対する浄土真宗の改革運動である浩々洞一派の影響を探ること、そして福島がその延長線上で国体論に吸収されていったその理由を探ることを目的とした。その結果、特に後者に関してはその鍵となる出来事が満洲建国大学教授への着任が重要な意味を持っていることを突き止めた。王道に基づく道義国家建設というイデオロギーに福島の真宗信仰と聖徳太子信仰が結びついたのである。コロナのため思うように研究会や資料調査を実施できなかったが、何回か研究会をオンラインで行い、専門家から貴重な話を伺うことができた。成果としては、2020 年 9 月にオンライン開催された教育思想史学会でコロキウムを眞壁と山本が中心となって企画し研究成果の一部を発表した。また、眞壁はドイツの代表的教育学雑誌である Paragrana に眞壁が福島の教育学に関する論考を寄稿した。

## 2. 研究成果実績の概要(英訳)

Our research question is: what was the influences of the modern Buddhism upon the Pedagogy and educational practices before the WWII. Makabe investigated the materials of Masao Fukushima in his educational activities at the university of Kenkoku, which was founded in the puppet state Manchuria by imperial state Japan. We could reveal the reason why the peaceful educational Idea of Fukushima turned to colonialism as a result.

3. 本研究課題に関する発表							
発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)				
Hiromoto Makabe	Bildung und Mahayana-Buddhismus	paragrana, FU. Berlin	2021年5月				
山本正身	近代仏教と教育をめぐる学説史的研究 II: 指定討論者コメント	近代教育フォーラム 30 号	2021 年 9 月				